

知り合う

”金持ちから盗んで貧しい人々に分け与えた” ロビン・フッドについてどう思いますか？使徒パウロは彼をどのように評価し、助言したと思いますか？

聖句 – エペソ人への手紙 4:28-29 (聖書協会共同訳)

文脈：パウロは4章の初めに、クリスチャン一人ひとりが自分の古い生き方を捨てて、キリストのように、 神に従う新しい生き方を受け入れること、また受け入れるべきであると教えてきました。そして、クリスチャン一人一人がこのように変化していくとき、すべての人が一つに結ばれて一つの体を形成し、それぞれのメンバーが他のメンバーに仕え支え合っていくのです。パウロは次に、具体的なクリスチャンの行動について考察しています。： 第一に、私たちは互いに正直でなければなりません。互いに怒ったままにならないように注意しなさい。悪魔が私たちを罪に誘惑するために、私たちの怒りを利用する機会を与えてしまうからです。（4:26,27）

今日の朗読で、パウロはこう続けています。

28 盗みを働く者は、もう盗んではいけません。むしろ、労苦して自らの手で真面目に働き、必要としている人に分け与えることができるようになりなさい。29 悪い言葉を一切口にしてはなりません。口にするなら、聞く人恵みが与えられるように、その人を造り上げるために必要な善い言葉を語りなさい。(聖書 協会共同訳: ©日本聖書協会 Japan Bible Society, Tokyo 2018)

学び

1. 人はなぜ盗むのでしょうか？なぜクリスチャンは盗むべきではないのですか？
    a. 28節の後半の文章は、最初の文章をどのように補う効果がありますか？

2. 真面目に働くことは、"不誠実な仕事 "が盗みの一形態であることを示唆している。「自らの手で働く」とは、誰かの仕事を自分のものだと思い込むことが不正であることを示唆しています。
    a. 人はなぜ働くのですか？クリスチャンが働くべき理由は何ですか？(28節c)
    b. 困っている人を助けるために不正を働くことは、神を喜ばせますか？それは、なぜでしょうか？

3. ここでは、困っている人を建て上げ、聞く人を祝福するための言葉だけが使われるべきであると示唆されています。つまり、クリスチャンが汚言を口にするべきではないことが示されています。
    a. 私たち自身が邪悪な言葉、腐敗した言葉、不健全な言葉を口にしていることに気づいたとき、それは私たち自身について何を示しているのでしょうか？どのようにその状況を正すことができるでしょうか？

適応: 私たちはそれぞれ、自分自身と自分の仕事が聖書の基準に合っているかどうかを吟味すべきです。以下のディスカッションの中で、不正を悔い改めましょう。

ディスカッション:盗作、脱税、不正確なタイムカード、虚偽の保険金請求、虚飾に満ちた履歴書、従業員への給与の未払い、労働倫理の欠如、他人の仕事の手柄を横取りするなど。私たちはどうすればお互いに、よりうまくやっていけるのでしょうか？どうすれば互いに助け合えるのでしょうか？

シェア

過去に盗みを働いたり（不正な仕事）、困っている人たちにきちんと分け前を与えなかったりしたことはありますか。思い当たる場合、どのようにその経験を修復しましたか？その前後では、どのような気持ちの変化がありましたか？自分の仕事の管理方法や慈善寄付について、誰かのためになるような発見はありましたか？

成長

賛美と具体的な祈りの課題を分かち合うことによって、互いに仕えましょう。

- 神が、私たちの仕事と寄付について、神のご意志を見分ける知恵を、私たち一人ひとりに与えてくださるように。そして、神に最も喜ばれる方法で働き、与えることを望む心を与えてくださいますよう祈りましょう。
- 私たちが神の民として、知恵を分かち合い、祈りやその他の場面で互いに支え合うことによって、これらの事柄についてどのように互いに助け合うことができるか導いてくださるよう祈りましょう。